

対策工比較検討表

	吹付法枠工併用鉄筋補強土案	プレキャスト受圧板併用グラウンドアンカー案	YS ロックボルト逆巻き支圧装置併用鉄筋補強土案
概略図			
工法概要および施工性	<ul style="list-style-type: none"> ・補強材の抵抗力ですべりを抑止する。 ・法枠の交点に鉄筋補強土工を行うので、部分的に深いすべりに対しても対応可能である。 ・枠が連続しているので法面全体を抑止することが可能である。 ・地山に直接コンクリートを吹付けるので耐久性・耐震性に優れる。 ・応力解放が原因で崩壊するような場所では、押え盛土的效果を發揮する法枠工の施工は望ましい。 ・枠内を緑化することで自然環境との調和が図れる。法枠の横梁が緑化柵となり木本類の育成も可能である。 ・逆巻き工法の施工には問題がある。 ・段数が多く、いろいろな工種が複合するので工期が非常に長くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンカー工の締付けおよび待受け効果ですべりを抑止する。 ・アンカーの支圧構造物として、軽量で施工性のよい軽量受圧板を採用する。 ・切土法面の安定工法として最近良く採用されている。 ・アンカー工の維持管理が必要である。 ・受圧板が 1,400×1,400 と大きいので、緊張定着工までの斜面の安定に不安が生じる。 ・足場工の仮設が必要で工期が長くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補強材の抵抗力ですべりを抑止する。 ・地山の切取による不安定土塊に対して、施工時の安全確保の向上と災害の未然防止を図ることが可能である。 ・逆巻き施工に適したYS板を用いることにより工期短縮が可能である。 ・地山に直接コンクリートを吹付けるので耐久性・耐震性に優れる。
工種+数量	<ul style="list-style-type: none"> ・10m当り ・鉄筋補強土工 SD345 D-25 N=67本 ・吹付法枠工 F-300 (900×900) L = 113 m ・枠内厚層基材吹付け工 t = 5 cm A = 20 m² 	<ul style="list-style-type: none"> 10m当り ・グラウンドアンカー工 115 mm K5-4H L = 8.5~10.5m × 8本 ・受圧板設置工 FFU 1400 S-3 N = 8基 ・厚層基材吹付け工 t = 5cm A = 34 m² 	<ul style="list-style-type: none"> ・10m当り ・鉄筋補強土工 EGS D23 N = 33本 ・YSロックボルト逆巻き支圧装置 N = 33基 ・厚層基材吹付け工 t = 5 cm A = 34 m²
概算直接工事費	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋補強土工 @ 22,900 × 67本 = 1,534,300 ・防錆キャップ工 @ 4,500 × 67ヶ所 = 301,500 ・吹付法枠 @ 12,400 × 113 m = 1,972,000 ・枠内厚層基材吹付け @ 4,000 × 20 m² = 80,000 <p style="text-align: right;">計 3,887,800</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドアンカー工 @ 240,600 × 8本 = 1,924,800 ・受圧板設置工 @ 193,500 × 8基 = 1,548,000 ・厚層基材吹付け @ 5,000 × 44 m² = 220,000 ・足場仮設工 @ 3,500 × 100空m³ = 350,000 <p style="text-align: right;">計 4,042,800</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋補強土工 @ 74,620 × 33本 = 2,462,460 ・YS板設置費 @ 35,500 × 33基 = 1,171,500 ・厚層基材吹付け @ 5,000 × 34 m² = 170,000 <p style="text-align: right;">計 3,803,960</p>
工期	最も長い	中程度	最も短い
総合判定			